

## FD 学外セミナー参加報告書

氏名：鳩貝 耕一

所属/職名：情報教育研究センター 教授

参加セミナー名：平成 26 年度 教育改革 ICT 戦略大会（私立大学情報教育協会）

セミナー参加日時/場所：平成 26 年 9 月 3 日～5 日 私学会館（東京）

### ■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

今回の私情協の大会は、私立だけでなく国立大学の発表もいくつかあり、国の大学改革の方向性にそったインパクトのある発表が目立った。

#### ・全体会（9月3日）

午前の部では、産業界からみた大学教育改革に向けての課題と、大学卒業生で企業経験 3 年前後の社員 3 名による大学への教育改善要望のセッションがそれぞれあった。大学関係者の発表からは得られない視点の提言は、参考になることが多かった。

午後前半の部では、長崎大学と北海道大学のアクティブ・ラーニング（AL）に関する事例発表、および創価大学と関西大学がそれぞれラーニング・コモンズとファシリテータ（TA・LA）の活用事例について発表した。

午後後半の部では、NTT ドコモと東京大学のコラボによる反転授業の事例報告と中教審会長の安西祐一郎先生が、「日本再生のための大学改革」と題する講演を行った。

この中で一番印象に残ったのは、安西先生の発表の最後に出てきた FSP（Future Skills Project）研究会である。ご存じの方が多いのかもしれないが、大学入学早々の初年次学生に対し、産学共同授業を行い、難題で学生を覚醒させようというものである。取組みに対する反対も多いそうだが、4年間の学修態度が改まる良い機会となる授業を推進させている。

#### ・テーマ別自由討議（9月4日）

午前午後を含め、4つの分科会が催されたが、このうち創価大学と山梨大学による A「アクティブ・ラーニング実施に伴う課題の考察」、および早稲田大学と大阪大学による C「学修支援の仕組みと支援者の養成」に参加した。それぞれ有意義な知見が得られたが、**山梨大学の発表**について次ページに簡単にまとめる。早稲田大や阪大では、共通教育に対して血の滲むような努力が行われているが、それでも全学生の数%しか恩恵を受けていないという現実が印象に残った。

#### ・大会発表（9月5日）

5つの部屋で、それぞれ発表セッション（発表数：18～19）が行われたが、このうち学修支援体制、アクティブ・ラーニング、反転授業に関する発表セッションに出席した。この三つのジャンルの中では、反転授業に関する発表がその教育効果を示しやすい（すなわち、結果が出やすい）という印象を受けた。